



書道研究
有根会 本部
〒496-0812
愛知県津島市兼平町1-92-1
TEL・FAX 0567-69-6925
発行 編集部

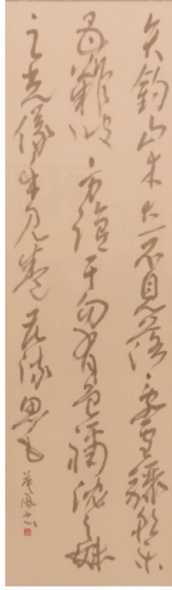


会長
松下英風

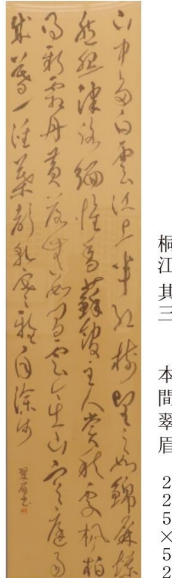
昨年より続くコロナ禍の影響が大なる中で、第五十二回有根会書展を開催することが出来ました。このような状況にもかかわらず、多くの来場者で賑い、無事に終えることが出来ましたことは、皆さんのご協力の賜物と感謝しています。
オミクロン株感染拡大が何時まで続くか分かりませんが、万全を期して、令和四年度の諸行事を前向きに進めていきたいと思っています。

行事は、会の発展となり、会員との交流である懇親会がセツトであること。コロナ禍の中では、それも出来なくなりました。大変つらい事ですが、逆に在宅時間が増え、臨書や作品制作に励んでいた会員も多く見受けられます。第八回日展に本会の本間翠眉さんや畑裕子さんが入選し嬉しい限りです。
中日展・読売書法展など、始まりませ。会員の皆さんの参加をお願いし、意欲的な作品を見せて下さい。
作品を発表することは大変意義のあることだと思います。出品者が増えることを期待しています。

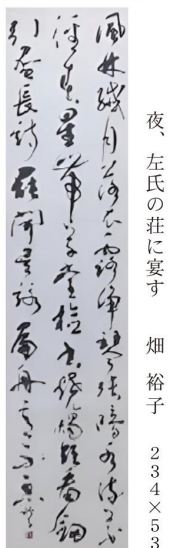
第8回日展入選作品



萬葉集二首 松下英風 200×60



桐江其二 本間翠眉 225×52



夜、左氏の荘に宴す 畑裕子 234×53

郷土の芸術家展
松下芝堂氏(書)

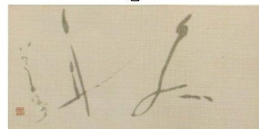
真野 広氏(洋画) 横井照子氏(洋画)
令和3年

10月29日[金]▶30日[土]
午前10時~午後5時

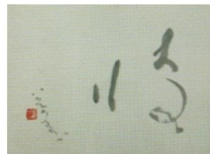
(最終日は午後1時まで)
津島市文化会館(小ホール)
津島市藤浪町3丁目89-10
TEL0567-24-1122



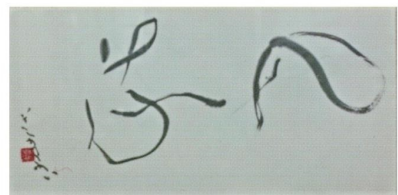
念



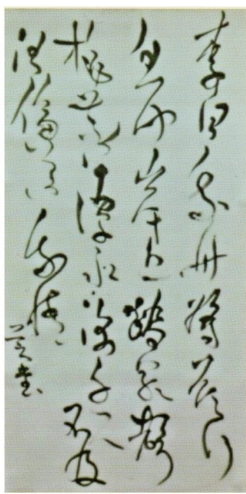
孤舟



情



風流



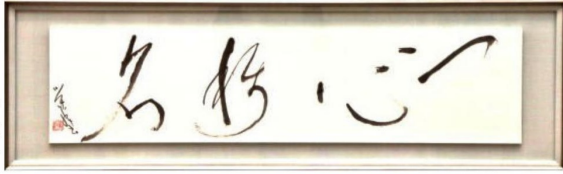
贈汪倫

私はいつの頃からか「かたち」というものは運筆の具合によって自然に出来あがつていくものではないかと考えるようになった。筆を紙にあって、鋒先をひろげてやる、そのまま引いてくると当然のことながら筆が浮いてくる、そこで、また一呼吸入れて、鋒先を紙になじませ、引く。このリズムの後を追いかけるように「かたち」が生れてくる。私にとって用筆法を云々することは私のかたち、すなわち私の書そのものを論じることになってしまうのである。
だから、お前の用筆法は、と問われたら、解らないと答えるのがもっとも正直な言葉になるだろう。解らないから私は書をかき続けるのである。筆を運ぶ場合、心掛けていることは筆の命毛をいつくしむということであろうか。命毛が線の外に出してしまうないように、なだめすかしながら線を引く。このことはいわゆる直筆を用いない時でも念じていることである。(松下芝堂先生のことば)
亀畑明曠先生よりご提供

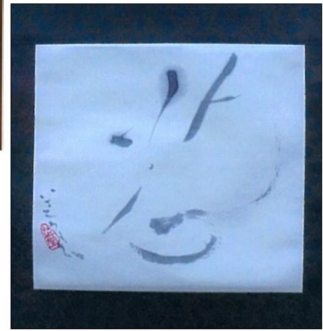
第52回 有根会書展 役員作品



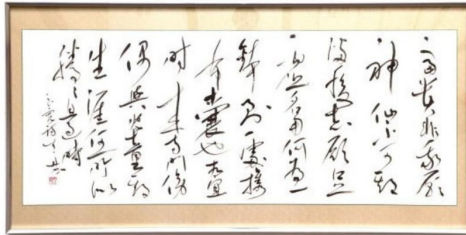
風花雪月 副会長 古川昇史 3×6



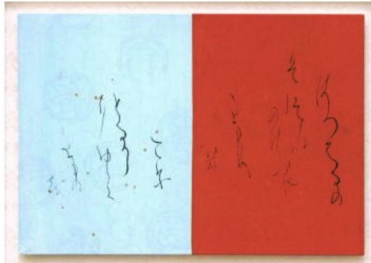
一心称名 常任顧問 三神榮軒 2×6



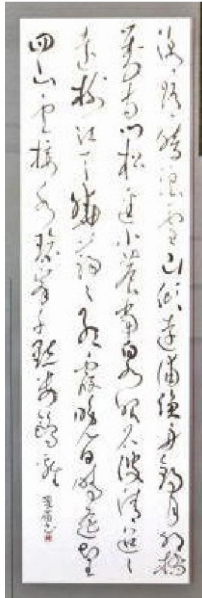
特別出品 芯 故 松下芝堂先生 1/3 半切



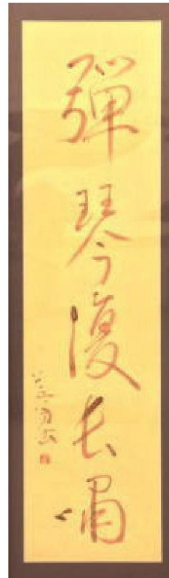
良寛詩 副会長 加藤矢舟 3×6



万葉歌 副理事長 亀畑明曠 全懐紙



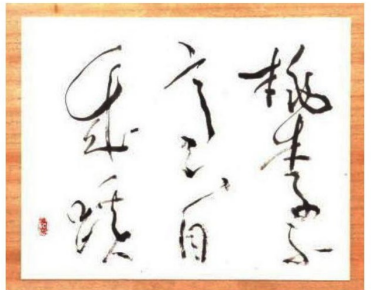
題金山寺 副理事長 本間翠眉 3×8



彈琴復長嘯 理事長 古川芝芳 半切



不羈奔放 会長 松下英風 全紙



桃李 常任理事 庄田翠苑 50×38cm

有根会書展では、松下芝堂先生の今回の遺作品は「芯」。たった一文字ですが、線の潔さ、余白の美しさが際立っていました。三神常任顧問の「一心称名」は、卒寿を過ぎたとは思えない力強さに感動いたしました。そして、松下会長の「不羈奔放」や、加藤副会長の「良寛詩」、古川副会長の「風花雪月」が、特に会場全体を引き締めていました。二回目となる役員企画展も「千支」がテーマとなり、今年の「寅」にちなんだ小作品が入口で賑やかに迎えておりました。来年こそは二年連続で中止となっている懇親会及び表彰式を、コロナと共存しながらでも開催出来ることを願っています。

一月十二日から十六日まで愛知県美術館ギャラリーH・I室にて会員五十九点、公募百一点が清しく展覧されました。忍び寄る第六波で来場者の足を止めるかと思われましたが、日比津島市長、浅井津島市教育長、東海テレビ加藤様、中日書道会の役員の方、翠軒系の先生方など、千支の方向にお越しいただきました。また、中日新聞の県内版に初日翌日に大きく書展の記事を掲載していただき、それを見て訪れる方も、こんな状況下にも関わらず大勢いらっしゃいました。改めて、感謝申し上げます。

コロナウイルス旋風も三年目に入り、消毒、マスク生活にも、すっかり慣れてきてしまいました。展覧会場では、受付には消毒、検温器、来場者連絡先名簿、芳名録前の衝立は、当たり前となつてきて、パラタイムチェンジを感じます。今夏、コロナ感染第五波も下火になつて、漸く、制限もなく、生活に活気が戻りつつあった年末年始迄でしたが、じわりじわりと第六波が、忍び寄る中での開催となりました。



常任理事 松下三雪

第五十二回有根会書展を開催できて



春行寄興 副理事長 永谷恵子 3×6

迎春 常任理事 藤村真徳 半切×2

日出扶桑路遙升若 常任理事 松下三雪 2×8

山呼 常任理事 黒野芝香 3×6

鳥啼花落水空流 常任理事 村上雪山 全紙

秋野五首其二より 常任理事 中尾芝菜 全紙

五言二句 常任理事 古川侃司 2×8

良寛詩 監事 倉知葉舟 2×8

暁 樹 常任理事 加藤香雪 全紙 1/2

白居易詩 監事 岡田愛子 3×8

第五十二回有根会書展 入賞者

- 芝堂大賞 松下三雪
- 芝堂準大賞 庄田翠苑
- 岡田愛子 鷺野春翠
- 中日賞 稲吉邦子
- 内山雅舟 中村智恵子
- 前野秋豊 美濃部純
- 東海テレビ賞 伊藤祥子
- 大野 彩 長船志保
- 八田節子 林 律翠
- 第三十八回公募展 入賞者
- 愛知県知事賞 柘植悠香
- 有根会賞 内藤万記子
- 神谷芝慶 白井麻美
- 中日賞 飯谷朋子
- 杉浦芹奈 重信三舟
- 松井香峰 藤原和美
- 東海テレビ賞 小川翠香
- 鯉江矢雲 森島光華
- 川瀬実咲 柄澤信一
- 秀作 花木 巽
- 中尾美恵子 長谷川美雪
- 青山蘭香 高見さと子
- 高須舉舟 寺崎矢峯
- 高柳藍玉 辻岡亨美
- 本間賀世枝 前田加奈子
- 太田奈穂美 朝倉幸美
- 草木美里 吉川佳子
- 山田いつ子 興語 綾
- 松井千栄子 高辻由美

芝堂大賞を受賞して

常任理事 松下三雪

展覧会の搬入作業後、審査員による審査も終わり、受賞者の賞の名札取り付けをお手伝いして、まさか、自分の作品に「芝堂大賞」の名札を付けるとは……レタックスよりも早く知ってしまい、ただ、ただビツクリしてしまいました。「芝堂先生のところのお嫁さんは、ある程度書けないと」と言われて、勉強し始めた毛筆書写検定に始まり、「自分の教室を持つと勉強になる」と言われて、主人に背中を押されて習字教室をひらき、会員増加になれど、有根会書展に出品して、あつという間に幾年月か経っておりまして。未熟者の私が、栄えある芝堂大賞を賜り、身に余る感謝の気持ちでいっぱいです。師の温かくも厳しいご指導のおかげと心より感謝申し上げます。

親の介護世代となり、一旦は、書活動をやめようかと考えましたが、「あなたは書道をやめてはだめよ」という母の言葉で後押しされました。目まぐるしい日々ですが、精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願ひ申し上げます。



コロナ禍で表彰式・祝賀会が開催出来ず 急遽 展覧会場にて授与となりました

第52回有根会書展

第九回書初め公募展を終えて



副理事長
本間翠眉

令和四年一月十二日(水)～十六日(日)まで愛知県美術館ギャラリー八階H・I室廊下壁面に、厳正な審査の結果百二十七点の優秀作品を展示。(無鑑査作品含む)。表彰式はコロナウイルス感染症流行により中止。但し十五日(土)十六日(日)のみ、会場にて、入賞者八ガキ持参の方には賞状・賞品渡しを行いました。うれしそうにご家族の皆様と書初め展をゆっくり見て、受付で芳名録に揮毫をしていただきました。

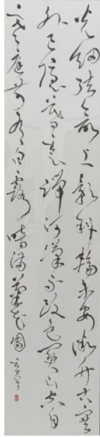


受付にて芳名録に揮毫体験



第9回書初め公募展8Fギャラリー

ホームページ随時更新中
《書道研究 有根会》
どうぞご覧ください



この度、第三十七回読売書法展におきまして、「読売奨励賞」を賜わり、感謝の気持ちでいっぱいです。これも偏に会長松下英風先生をはじめ諸先生方、何より四十年御指導いただいている亀山富美先生の御陰と心より御礼申し上げます。「格好つけすぎ 普通に書きなさい。」いつも亀山先生に注意されています。コロナ禍の為、直接作品指導が難しい為、この言葉を念頭に創作しました。今回の作品は、杜甫の「初月」五言律詩。暫く七言絶句の作品が続いていましたが、松下会長のアドバイスで五言律詩から選択しました。淡墨作品は、文房四宝にも気を使おう書風で、誤魔化す事も許されない大変難しい書風だと考えており、この書風を勉強できる幸せを感謝しつつ、努力していく所存です。



常任理事
村上雪山

読売奨励賞を受賞して

有根会役員

- | | |
|------|--------|
| 常任顧問 | 三神 榮軒 |
| 会長 | 亀山 富美 |
| 副会長 | 松下 英風 |
| 理事長 | 加藤 矢舟 |
| 副理事長 | 古川 昇史 |
| 常任理事 | 古川 芝芳 |
| | 天見 芳泉 |
| | 亀畑 明曠 |
| | 永谷 恵子 |
| | 本間 翠眉 |
| 常任理事 | 秋田 桃泉 |
| | 落合 玉泉 |
| | 加藤 香雪 |
| | 黒野 芝香 |
| | 庄田 翠苑 |
| | 中尾 芝菜 |
| | 畑 裕子 |
| | 林 翠葉 |
| | 藤村 真徳 |
| | 古川 侃司 |
| | 堀田 廣泉 |
| | 松下 三雪 |
| 監事 | 岡田 愛子 |
| | 倉知 葉舟 |
| 理事 | 阿知 波江泉 |
| | 大野 昭子 |
| | 奥村 春翠 |
| | 粕谷 芳翠 |
| | 加藤 華泉 |
| | 加藤 翠林 |
| | 川松 杷泉 |
| | 小林 雅子 |
| | 谷 順子 |
| | 遠山 翔雅 |
| | 夏目 美沙 |
| | 西川 佳江 |
| | 西脇 昭子 |
| | 橋口 たす子 |
| | 藤井 秀堂 |
| | 山田 千鶴 |
| | 鷺野 春翠 |
| | 渡部 春泉 |

- 令和四年度事業計画
- ◇四月二十九日(祝・金) 総会・作品研究会 豊川稲荷
 - ◇二月二十八日(火)～三月五日(日) 第五十三回有根会書展
 - 第三十九回公募展
 - 第十回記念書初め公募展
 - 愛知県美術館ギャラリーE・F室
 - ◇三月四日(土) 書初め公募展表彰式
 - 愛知県芸術文化センター(十二階) アートスペースA室
 - ◇三月五日(日) 有根会書展・公募展 表彰式及び懇話会
 - 名古屋マリオートソシアホテル
 - ◇研修旅行 企画中
- 編集後記
- 前号に引き続き、コロナ禍での第十一号発行となりました。マスク生活に慣れてしまったりは言え、数年前には、世界中の人々がこんな長い期間苦しめられる時代が来るとは、思いもよりませんでした。当たり前のようにならぬと幸せでありたいことか、しみじみと感じます。今度こそ次号発行の頃には、平穩な日常が戻ります。明るい記事や沢山載せられますよう、心から祈っています。
- 編集委員 永谷恵子 大野昭子
加藤翠林 小林雅子